

「ランナー子株の冷蔵貯蔵」でイチゴの育苗労力の負担が軽減

【背景・目的・成果】

従来の育苗、採苗: 挿し苗に用いる2~3葉期のランナー子株の採苗は、苗の生育を揃えるため一斉に行わねばならず、作業労力が集中していました。また、育苗期間が次作のほ場準備等と重なり、育苗時の作業分散が課題となっていました。

改良した方法: 採苗後の小苗を冷蔵貯蔵することで、採苗、育苗作業の分散化が可能になりました。

- ・約1カ月の間に3回程度に分けて採苗作業をすることができます。
- ・採苗後すぐに行う必要があったポット等への挿し苗作業を、別の日にまとめて行えます。

■ 採苗作業

- 1 親株側を長めに(10cm程度)残してランナーを切り離す。
- 2 向きを揃えてチャック付きポリ袋に入れる。
- 3 葉を上にしてコンテナに詰め、マイナス2~0℃の冷蔵庫に入庫する。
- 4 貯蔵期間が長いほど開花期が遅れるため、貯蔵は1カ月までとする。

- ・切り離した子株は280×400mmのポリ袋に100株程度詰めると直方体に近く取扱い容易
- ・大規模農家では外寸524×365×h309mmのコンテナに10袋前後入り、積み重ねが可能で冷蔵庫に保存しやすい。

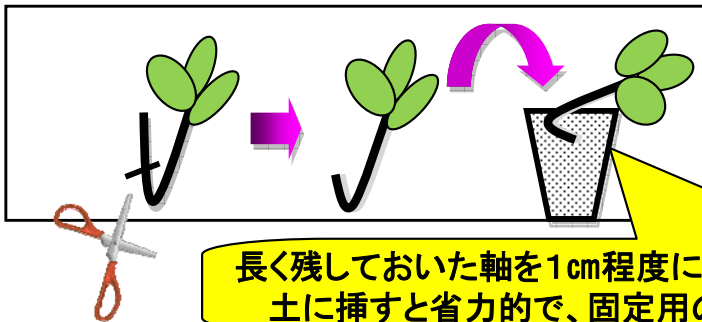


1コンテナ当たり約1,000株



■ 出庫後の挿し苗作業

出庫後の苗は直ちに挿し苗する。その後葉水を与え、手かん水または底面かん水を行うことで速やかに活着させる。



長く残しておいた軸を1cm程度に切り、そのまま土に挿すと省力的で、固定用のピンも不要



【技術の活用】

- ・栽培規模20アール程度以上の農家を対象に、普及センターを通じて情報提供すると共に、パンフレットを配布して普及します。
- ・必要資材…冷蔵庫: 既存のものを使用(予冷庫、冷凍ストッカー等を使用)、ポリ袋: 台所用品を購入して使用(約1,200円/100枚)、コンテナ: 既存のものを使用